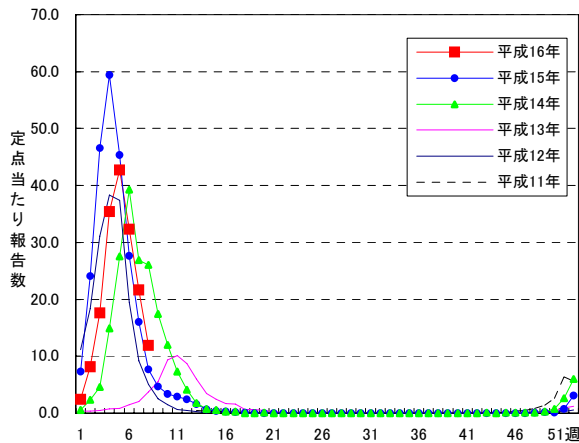
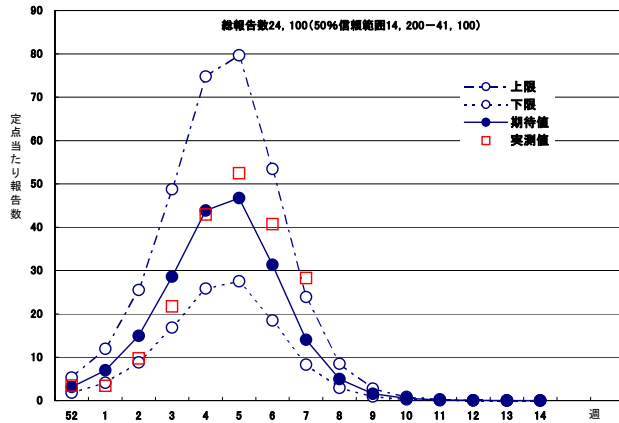


流行状況

インフルエンザ



愛知県インフルエンザの流行予測* (名古屋市を除く)



* 愛知県衛生研究所における平成 15 年~16 年シーズンのインフルエンザの流行予測については (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/infyosoku.html>)、集団かぜの発生については愛知県のホームページ記者発表資料 (<http://www.pref.aichi.jp/service/kisya/>) をご覧下さい。

疾患名	前週	今週	備考
<u>インフルエンザ</u>	21.6 ↓	11.9 ↓	インフルエンザウイルスによる急性感染症で高熱、四肢疼痛、頭痛、全身倦怠感、食欲不振を主症状とする
<u>感染性胃腸炎</u>	7.7 →	8.8 ↑	細菌あるいはウイルスなどの感染性病原体による嘔吐、下痢症
<u>A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎</u>	1.2 →	1.4 →	レンサ球菌のうち血清型分類の A 群に分類されるものによる上気道感染症
<u>水痘</u>	1.7 →	1.8 →	「みずぼうそう」とも呼ばれ、ウイルスが原因で発生する人から人にうつる感染症

定点当たり報告数

↓ 減少 → 横ばい ↑ 増加

© 全国状況につきましては厚生労働省感染症研究所感染症情報センターホームページ (<http://idsc.nih.go.jp/kanja/index-j.html>) の感染症発生動向調査週報をご覧下さい。

© 感染症についての説明及びグラフ総覧については、愛知県衛生研究所のホームページ (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/>) をご覧ください。

トピックス

インフルエンザウイルス分離状況（平成 16 年 2 月 24 現在）

平成 16 年 2 月 24 日現在、感染症発生動向調査の目的で医療機関等から県衛生研究所に搬入された 151 検体から A 香港型インフルエンザウイルス 94 株が分離されました。また、B 型インフルエンザウイルスについては、12 月に 1 株が分離されていましたが、2 月にまた 1 株分離されました。集団発生については、6 施設（瀬戸保健所管内小学校、師勝保健所管内小学校、豊橋市保健所管内小学校、加茂保健所管内中学校、知多保健所管内小学校、豊田市保健所管内小学校）から搬入された 52 検体から、A 香港型インフルエンザウイルス 19 株が分離されています。

抗原性は、A 香港型についてはすべて今冬（2003/2004 シーズン）のワクチン株の A/パナマ/2007/99 から若干の抗原変異がみられ、アメリカやヨーロッパで流行を起こしている福健（Fujian）タイプの A/熊本/102/02 と一致していました。A 香港型分離ウイルスの代表株を遺伝子解析した結果もこれを支持していました。また B 型は今冬のワクチン株と異なる山形系統でした。

インフルエンザ患者数の定点あたりの報告数から見ると、今シーズンの流行はピークを越したと判断されます。インフルエンザウイルス分離状況からは、A 香港型が流行の主流を占めていると考えられますが、定点病院の先生方からのコメントに迅速診断キットで B 型陽性例の報告が散見されています。散発的に報告されている B 型は今後大きな流行を起こす事はないと予想されますが、過去のシーズンにおいては春先にかけて局地的な流行を起こした事例もありますので注意して下さい。

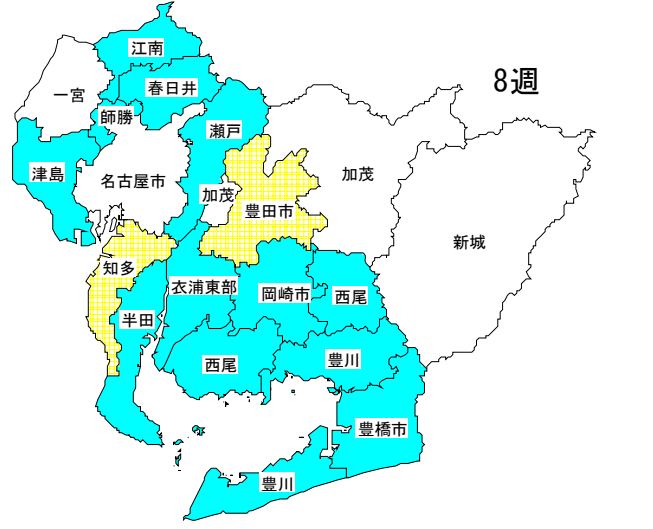
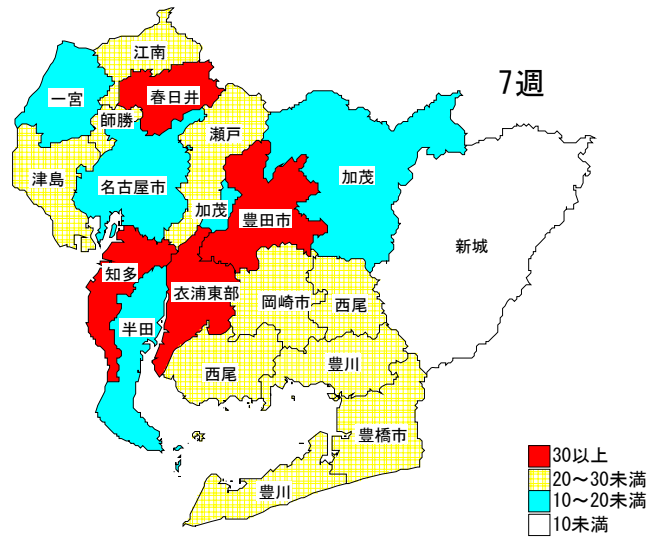
また検査定点の先生方におかれましては B 型が散見されていますので、引き続き検体を採取していただきますようお願い致します。

2004.2.24 現在（名古屋市を除く）

発生動向調査	11月	12月	1月	2月	合計
検体数	1	26	109	15	151
A 香港型	1	10	75	8	94
B型		1		1	2

集団発生	1月	2月	合計
検体数	42	10	52
A 香港型	17	2	19

インフルエンザの保健所別報告数の推移（名古屋市含む）



		8週	定点 当たり	7週	定点 当たり			8週	定点 当たり	7週	定点 当たり
名古屋市		468	6.7	799	11.4	岡崎市	○	185	16.8	316	28.7
瀬戸	○	137	15.2	213	23.7	衣浦東部	○	186	16.9	354	32.2
津島	○	76	10.9	197	28.1	西尾	○	61	12.2	131	26.2
師勝	○	75	18.8	107	26.8	豊田市	○	206	25.8	379	47.4
一宮		138	8.6	240	15.0	加茂		13	4.3	39	13.0
春日井	○	169	18.8	330	36.7	豊橋市	○	167	13.9	340	28.3
江南	○	80	13.3	169	28.2	豊川	○	112	12.4	206	22.9
半田	○	83	13.8	119	19.8	新城		9	4.5	18	9.0
知多	○	153	21.9	259	37.0						

△ は今週注意報が出ている保健所です。
○ は今週警報が出ている保健所です。

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによるインフルエンザの流行発生注意報は保健所（市）定点当たり 10 人を越えた場合に、また、流行発生警報は 30 人を越えた場合に発生し、10 人を下回るまで継続します。警報の意味は大きな流行が発生または継続しつつあることが疑われるということです。

定点の先生方からのコメント

尾張西部地区

- 病原性大腸菌O1 22歳男
病原性大腸菌O6 11歳女
病原性大腸菌O18 5歳男、8歳女
アデノウイルス感染症が多く(アデノチェックで6人便アデノでは数人)確認されています。ロタウイルス感染症は、最近増加しつつあります。
その他、高熱(39℃以上)嘔吐を伴う感染症が増加していますが、原因は判明しておりません。
【尾西市 城後小児科】
- 感染性腸炎増加、年長児でもみられます。
インフルエンザ12人全てA型8人がワクチン接種済。今年はワクチン接種なくとも比較的軽いようです。
【一宮市 あさのこどもクリニック】
- アデノウイルス感染症2名(1歳、8歳)
インフルエンザ減る、B型1名
【一宮市 平谷小児科】
- 高熱、腹痛を主訴とする胃腸かぜが小流行しています。
【犬山市 武内医院】
- A群溶連菌感染症、ロタウイルスと思われる感染性胃腸炎が流行中です。
インフルエンザは非常に少なくなりました。(A型9名、B型1名)
【江南市 みやぐちこどもクリニック】
- インフルエンザは37例と少なくなっています。うちワクチン接種者12人。
急性胃腸炎が増えてきました。
水痘、溶連菌が多発しています。ムンプスも散発
【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】
- 8ヶ月女 1歳7ヶ月女 1歳1ヶ月男 ロタウイルス(+)
3歳女 6歳男 マイコプラズマ肺炎
【春日町 丹羽医院】

尾張東部地区

- ウイルス性胃腸炎が増加しました。
インフルエンザは少なくなりました(ワクチン接種は40%)。
【瀬戸市 津田こどもクリニック】
- インフルエンザ流行のピークを過ぎたようです。
幼児のアデノウイルス感染症が目立ちます。(高熱が4~5日持続する例もあります)。
その他今週は目立った感染症はありませんでした。
【尾張旭市 医療法人誠和会 佐伯小児科医院】
- インフルエンザA型9例、インフルエンザ減少傾向
胃腸かぜ多数
溶連菌感染症、ムンプス少々
【春日井市 朝宮こどもクリニック】
- インフルエンザは終息してきましたが、感染性胃腸炎、アデノウイルス感染症、溶連菌感染症の流行がみられます。
【春日井市 かがわ北病院】

-
- ロタを散見します。
インフルエンザ大幅に減少しました。
陽性率がめっきりへりました。
【春日井市 竹内医院】
 - インフルエンザA減少する。
ロタ胃腸炎小流行
【小牧市 小牧市民病院】
 - 1歳児でインフルエンザとヘルペス性歯肉口内炎の合併例あり。
【小牧市 志水こどもクリニック】
 - インフルエンザA 2名 インフルエンザB 1名
【半田市 医療法人林医院】
 - 5歳女 アデノウイルスによる扁桃炎
【美浜町 愛知県厚生農業協同組合連合会知多厚生病院】
-

西三河地区

- 3歳男 カンピロバクター
1歳男 ロタウイルス抗原(+)
7歳女 イムノカードSTアデノウイルス(+)
2歳男 病原性大腸菌O1
病原性大腸菌+ロタウイルス感染症の混合感染例が2症例ありました。
【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】
- 1歳女 病原大腸菌O6
【豊田市 岩瀬小児科】
- ロタウイルス嘔吐下痢症 増
【岡崎市 医療法人深田小児科】
- 3歳女 病原大腸菌O1(+)
11ヵ月男 病原大腸菌O6(+)
インフルエンザも大分減少
B型が1名のみ出ました。
【岡崎市 花田こどもクリニック】
- インフルエンザ5例 A型(1例予防接種済)
【岡崎市 竜美ヶ丘小児科スズキ医院】
- 4歳男 イムノカードST アデノウイルス(+)
4歳女 マイコプラズマ肺炎
【岡崎市 にいのみ小児科】
- 4歳男 病原大腸菌O18
5歳男 病原大腸菌O111
インフルエンザは全てA型(ワクチン接種者45%位)
【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】
- 暖かい日がつづいたせいかインフルエンザ減少。A型13例、B1例
【岡崎市 栗屋医院】
- インフルエンザA型 8名(4名家族内発症、3名ワクチン接種済)
上記8名 クイックS-インフルAB A(+)
【岡崎市 永坂内科医院】
- インフルエンザ減少、胃腸炎(ロタを含む)が目立ちます。
【碧南市 永井小児クリニック】
- インフルエンザA型 18人
【知立市 宮谷クリニック】

-
- インフルエンザ 8 名 すべてA
嘔吐、下痢が流行中

【西尾市 やすい小児科】

- インフルエンザはピークをこえました。
ロタウイルス胃腸炎が増加しました。

【幸田町 とみた小児科】

- 感染性胃腸炎が多いです。
インフルエンザは激減しました。

【三好町 三好町民病院】

東三河地区

- 5 歳女 帯状疱疹(1 歳 6 ヶ月 水痘ワクチン済、水痘の既往なし)

【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】

- ワクチン接種済 3 名

【豊橋市 医療法人山本内科】

- 43 歳男 B型インフルエンザ

【豊橋市 おだかの医院】

- インフルエンザB型が散見されます。

86 歳男、80 歳男、35 歳男、35 歳女、6 歳以下 4 名の計 8 名検出

【豊橋市 羽柴クリニック】

一～三類感染症の発生状況

— 愛知県(名古屋市を除く。) —

- 発生報告なし

四類・五類(全数把握)感染症の発生状況

— 愛知県(名古屋市を除く。) —

- デング熱 1 例 (感染地域: インドネシア 9 週報告分)

愛知県衛生研究所企画情報部(文責 磯村)

去年の暮れから咲きこぼれて庭の隅を明るくしてくれたロウバイが散り始めました。暖い日と寒い日が交互に訪れる昨今です。いつも貴重な情報を有難うございます。2月前半のまとめをお送りします。

- 1) 名古屋市内:名鉄病院福田先生からはA型インフルエンザ(重症の要入院あり)多発中でピークは過ぎたようだ、ロタウイルス腸炎急増(要入院目立つ)、水痘多発、入院ではマイコプラズマ肺炎が目立つ、第一日赤松山先生からはインフルエンザA57例(入院4例)、感染性胃腸炎入院12例、A群溶連菌感染症4例、水痘とムンプスそれぞれ4例あり、城北病院渡辺先生からはインフルエンザのピークは過ぎた?、嘔吐下痢症やや増加しロタ陽性者が目立ち、インフルエンザ後の肺炎が少々、高熱でインフルエンザ陰性・アデノ陽性がたまにあり、第二日赤岩佐先生からはインフルエンザAとロタウイルス腸炎が外来や入院例で目立つ、千種区今枝先生からはウイルス性腸炎が目立ち幼児から大人が罹患、インフルエンザAが幼児から中学生に目立ちワクチン接種者や抗ウイルス剤早期投与者では軽症者が目立つ、三菱病院入山先生からはA型インフルエンザが17例と目立ち肺炎・気管支炎合併で入院5例、感染性胃腸炎12例と目立ち病原性大腸菌O18が3例と多く、他にO111、O25、O126、サルモネラ等があり肺炎の入院5例、脱水を合併した感染性胃腸炎の入院4例、中京病院柴田先生からインフルエンザは2月第2週から減少、ロタウイルス下痢症の入院増加、労災病院山田先生からはムンプス、溶連菌感染症、水痘、急性胃腸炎(ロタウイルス感染症とロタ以外の胃腸炎あり要入院目立つ)、インフルエンザA(入院例目立つ)、乳児の百日咳1例、生後12日児を含むRSウイルス細気管支炎が目立つ、大同病院水野先生からはインフルエンザは1月10日頃から減少傾向、ロタウイルス腸炎急増し、脱水による要入院例が多いとのお手紙でした。
- 2) 尾張地区:犬山市武内先生からは溶連菌咽頭炎と水痘がそれぞれ散発中、インフルエンザAの流行が持続、ムンプス1例、江南市昭和病院小児科からはA型インフルエンザが目立ち溶連菌感染症、水痘も目立ちロタウイルス胃腸炎の入院も多い、常滑市民病院上田先生からは水痘と感染性胃腸炎、インフルエンザA型(要入院例あり、B型も少し。)、水痘、溶連菌感染症、ムンプス入院、重症水痘入院例、突発疹目立つとのお手紙でした。
- 3) 三河地区:トヨタ病院木戸先生からはインフルエンザB型が出現、アデノウイルスとロタウイルスまだ流行中で入院例あり、細菌性頸部リンパ節炎が3~4例続いた、安城更生病院小川先生からはインフルエンザAが散発、RSウイルスの細気管支炎が多い傾向あり、知立市近藤先生からはインフルエンザA10例、水痘4例、ムンプス5例、ロタウイルス2例あり、刈谷市田和先生からはインフルエンザAは低年齢化と共に減少傾向、嘔吐下痢症が相変わらず多いがロタ陽性が少し目立ち、溶連菌感染症とムンプス、水痘が散発中、陽性は1例のみ、碧南市永井先生からはインフルエンザは減少気味、アデノウイルス感染症とロタウイルス感染症あり、豊橋市からはインフルA、ロタウイルス腸炎、細気管支炎など発生中(市内長屋先生、宮澤先生)とのお手紙でした。有難うございました。

愛知県衛生研究所企画情報部 (文責 磯村)

2004年1月30日(79巻5号)

☆ 高病原性鳥インフルエンザ／インフルエンザA(H5N1)。中国：中国保健省は広東省南部の養鶏場で鶏と家鴨のA(H5N1)集団発生を報告。人感染例の報告はない。タイ：1月27日タイ保健省は人A(H5N1)感染確認第3例を報告。死亡2例目。6歳男児。カンチャナブリ県。ベトナム：1月24日ベトナム南部で最初の確認例2例報告。ホーチーミン市。8歳女児(生存)と13歳男児(死亡)。現在同国では人感染例計7例、内5例が北部ハノイ。7例中6例が死亡。

☆ 予防接種・ワクチン・生物製剤の専門家助言グループ(Strategic Advisory Group of Experts, SAGE)の03年7月7-9日会議の勧告。ポリオ根絶への努力：02年末の常在7ヵ国に対する人的・経済的支援の強化。04-08年、新規の根絶作戦計画を専門家の委員会で策定。予防接種の安全性：専門家による助言・勧告を04年も実施。WHOの標準化専門家とワクチン生物製剤担当者の合同作業の進展。予防接種の候補としてDNAワクチンに関する検討など。ワクチンの質、生産単位当りの検査、専門家による疫学調査の委員会発足。3価髄膜炎菌ワクチン(Nm A/C/W135 PS)の緊急性：サハラ南縁諸国の髄膜炎菌血清型 Nm W135 の大流行対策。HIVワクチン：HIV糖蛋白 Gp120 ワクチンの第3相試験の報告が SAGE に。男性同性愛者集団では有効性が認められなかったが女性を対象として例数を増加して検討。麻疹：噴霧による接種の検討。予防接種の予算化：既存の財源に外部からの支援を投入。ポリオ根絶諸国のワクチン接種担当者に定期接種の強化を。SARSワクチン：SAGE はWHOにSARSワクチン開発のために人的、財政的支援を強化するよう勧告。B型インフルエンザ菌ワクチン(Haemophilus infl. B,Hib)：アジアにおける調査(これまでは過小評価)と接種勧告。ワクチン温度管理の徹底。(11)今後の進展：①麻疹死亡例減少、②ポリオ不活化ワクチン導入。③視力障害予防のためのビタミンAの補給。④黄熱：予防対策とワクチン。⑤新生児破傷風：03年3月に専門家会議予定。⑥先天性風疹症候群：欧米における対策を他の地区にも普及。

☆ 1月23日-29日届出。コレラ：チャド、コンゴ、マリ、モザンビーク、ザンビア、タンザニア。

2004年2月6日(79巻6号)

☆ 鳥型インフルエンザ/A(H5N1)2月4日時点。タイ(人の感染):2月3日、6歳男児死亡。現在までに確認例4例、全例死亡。中国(養鶏):南部の養鶏場。31県中12県。インドネシア(養鶏):A(H5N1)ウイルス確認。世界の養鶏感染報告:現在、韓国、ベトナム、日本、タイ、カンボジア、中国、ラオス、インドネシア。人から人の感染:ベトナム。WHOはベトナム・タイビン県の集団発生を調査中。発生は31歳男性(死亡)、その姉妹23歳と30歳(共に死亡)、妻28歳(生存)。姉妹からA(H5N1)分離。家族は1月3日予定の婚礼の準備で集まり男性と姉妹の一人が12月下旬から家鴨に接触あり、他は接触なし。A(H5N1)の人一人感染は非常に稀であるが過去の香港やオランダの発生でも報告があり、WHOは慎重に調査中。

☆ SARS。中国、広東省:1月31日、中国保健省は12月16日以来4例目のSARSコロナウイルス(SARS-CoV)陽性例を報告。患者は広東省の病院医師。発病は1月7日で16日に肺炎で入院、完治。WHOは監視を継続中。

☆ ポリオ。ポリオ根絶作戦計画:04-08年。03年末の常在地は6カ国。地球規模の国際協力=各国政府、WHO、国際ロータリー、米合衆国疾病予防センター(CDC)、ユニセフや多国間・二国間協力、NGOなど=の元に展開され、常在国における制圧と野生株輸入の根絶のための国際的監視、ワクチン集団接種の普及、非常在地区における不活化ワクチン導入が08年を目標に立てられている。

☆ デング出血熱。東南アジア、西太平洋地区:最近数十年、デング出血熱が熱帯地区都市部で増加し、問題となっている。12月11-13日、マレーシア・クアラルンプールで第2回専門家会議開催。サーベイランス、検査室診断の標準化、ワクチン開発、WHOを中心とした国家間の情報網、WHOセンターの参加、第1回会議から試行されていたデング Net の評価と継続などが取り上げられた。

☆ インフルエンザ(04年1月第2、3週):北米、西欧地区ではA(H3N2)型が主体で東欧でも同様だがベラルーシュではA(H1)型とB型が散発、韓国ではB型。

☆ 1月30日-2月5日届出。コレラ:コンゴ、リベリア、ウガンダ、ザンビア。

